

令和3年度第1回輪之内町総合教育会議

日時：令和4年1月28日

19時00分～

場所：輪之内町役場

第1会議室

1. 町長挨拶

2. 教育長挨拶

3. 議事録署名者の選出

4. 協議事項等

(1) 輪之内町教育振興基本計画の進捗状況について

(2) 令和4年度教育課所管分当初予算について

(3) 輪之内町教育委員会の権限に属する管理及び執行の状況報告の流れについて

(4) その他

輪之内町総合教育会議委員

町長	木野隆之	教育長	箕浦靖男
教育委員会委員 (教育長職務代理者)	田中俊弘	教育委員会委員	市橋修
教育委員会委員	市橋肇	教育委員会委員	浅野千代子

輪之内町総合教育会議事務局

教育委員会 教育課長	野村みどり	教育委員会 教育課リーダー	松井均
教育委員会 主任指導主事	北嶋盛久	教育委員会 主任指導主事	加納隆生
参事兼総務課長	荒川浩	総務課長補佐	岩田好弘

(午後 7 時00分 開会)

○荒川参事兼総務課長 皆様、改めましてこんばんは。

本日は、第1回の輪之内町総合教育会議ということで御案内申し上げましたところ、皆様方におかれましては、1日のお仕事を終えられて大変お疲れのところ、また夜分に、お出にくい時間に参集いただきましてありがとうございます。

それでは、ただいまより教育会議を始めさせていただきます。

開催に当たりまして、町長より皆様に御挨拶を申し上げます。

1. 町長挨拶

○木野委員 改めまして、皆さんこんばんは。

また総合教育会議を開催する時期になりました。この時期ですと、いろんな教育に係る問題と、あとは来年度予算の話がメインのテーマになると思います。

それに入る前に、最近ではコロナ、コロナで、年明けからまた再び感染爆発といってもいいと思いますけれども、今日も886人という大きい数字が出ていまして、輪之内でも4名の方が感染しました。

考えてみますと、町では1月の初めまでは、皆さん新聞で数字を見ておられると思いますが61人という数字がずうっと何か月か続いてきました。今日、累計でいいますと97人になりました。もうすぐ100人になります。この30人の増加が僅か2週間ほどです。それまでの1年近いものが僅か2週間で出てしまっている。このままでいくと、単純に数字を伸ばしていけば、間違いなく100人、200人という感じに輪之内でもなるかもしれない。

状況を見てみますと、当初は高齢者と言われていましたが、最近の状況を見てみると、子供、若者、中堅の方から、また高齢者も徐々に増えてきているものですから、もはや全年代にわたって蔓延していると感じてよろしいかと思えます。

その中で、学校教育そのものもかなり大きな影響を受けておりまして、クラス閉鎖、もしくは複数出てまいりますと学年閉鎖、学校休業、学校を閉鎖するということにもなりかねない状況が出ています。大変危惧をしております。

そんな中ではありますけれども、やるべきことはやっぱりきちっとしていかなきゃいけないし、やっぱり顔を合わせないとできないこともありますので、特に私のようなアナログ人間にはやっぱりフェース・ツー・フェースでやらないとお分かりいただけない部分があり、連絡会議でしたら正直言ってモニター越しでも全然問題ないんですけれども、なかなか会議のテーマ以外のものでも本音を探ることがなかなか今できない状況ではありますけれども、数少ない機会でもありますので、今日、本音で議論をしていただければよろしいかと思っています。

ただ、感染防止のため、時間は厳格に守って、効率的に進めていただければ幸いです。よろしく申し上げます。

2. 教育長挨拶

○荒川参事兼総務課長 続きまして、教育長挨拶ということで、教育長より皆さんに御挨拶を申し上げます。

○箕浦委員 こんばんは。

お忙しいところ御出席いただきましてありがとうございます。

町内の小・中学校のコロナの感染状況ですが、先週は仁木小学校の3年生が学級閉鎖となりました。ちょうど1週間閉鎖になりまして、今週はどこの学校も閉鎖ということはありません。何とかコロナの感染対策を徹底して感染を出さないようにと思っております。でも、心配な子はおりますので、ひよっとすると感染者が出るかなと思って現在心配しております。

先日、保健所から、感染者が増えまして、今までは保健所が学校に、感染者リストの資料を取り寄せて、保健所がリストの名簿を作って感染の検査を受ける者などを選んでおりましたけれども、もう手が回らないというようなことで、感染リストを学校で拾ってくださいということで、先週からその方向で今進んでおるんですけども、昨日、事務所からメールが入りまして、学校から出されたそのリストですが、中には感染者ゼロという報告が入ったというようなことで、ゼロということは絶対あり得んというようなことで、あくまで保健所の指示で今までは濃厚接触者の選出をしておったんですけども、学校でその条件に当てはまるのを調べて、学校のほうで判断してということも先週出たんです。ですから、学校によってはゼロというような報告が出てくるということはおかしいということで、そんなことはないので、やっぱり保健所と一遍連絡を取って、再度きちんとやってくれというようなメールが昨日届きました。そんなことで現在進んでおります。

それから、今3学期、1か月終わりました。あと2か月で来年度に入ります。今、来年度の基本計画を各学校で進めております。フィールド校ですが、今年度、ICTのフィールド校ということで輪之内中学校と大藪小学校が取り組んできましたけれども、来年度も引き続き輪之内町でまた同じ学校で継続してやるということで、指定をいただく予定でおります。本当に今ICT、ICTと言っていて、そればかりやっても本当に学力がつくのかということも心配しておりますけれども、本当に実際コンピューターを使ってみると学習効率が上がりますし、そういう意味では大変いいものですので、来年度もしっかりとまた職員研修を進めて、進めていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○荒川参事兼総務課長 ありがとうございます。

3. 議事録署名者の選出

○荒川参事兼総務課長 それでは次に、議事録署名者の選出ということで、私のほうから指名させていただきますてもよろしゅうございますか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○荒川参事兼総務課長 それでは、順番に従いまして市橋修委員様、そして浅野千代子委員様にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

4. 協議事項等

○荒川参事兼総務課長 それでは続いて、4番、協議事項等でございますが、まず1番目、輪之内町教育振興基本計画の進捗状況について、御説明をお願いいたします。

○松井教育委員会教育課リーダー コンばんは。よろしくお願ひをいたします。

まず、その前に、お手元にはないんですけども、教育大綱とか教育振興基本計画、それからいじめ防止等のための基本方針、職場環境を悪化させる行為の防止及び対応に関する指針及び運用要領を、毎年見直し等を図っているんですけども、今回も教育委員会の中で、今回の見直しは変更部分はないということでありました。それから、こういった計画物は学校のほうでどうちゃんと対応しているかということで、そういったことも今年度4月の初めに、職員会議とかそういったところでちゃんと確認をしているということで回答をいただいております。まず報告をさせていただきます。

それでは、これも報告になると思うんですけども、振興基本計画の進捗状況ということで、2年度分をちょっと上げさせていただいております。定性的な評価もあるわけですけども、今回出させていただいておりますのは、8項目にわたる定量性の評価というものをどんな状況だったかということをお手元のほうに示させていただいております。

まず重点的に取り組む施策ということで、3項目ありました。ここの左端にあるこの3項目がそうなんですけれども、それが今どんな状況なのかということで、20年度、21年度ですけども、地域とともにある学校づくりの中で、地域と連携して実施する行事の実施数は、残念なことにコロナ禍の中で、例えばふれあい運動会とか、そういった地域と連携して行ういわゆるイベントというものが中止となっているという状況であります。

それから次、その下、ICT環境の整備・充実と利活用の推進ということですけども、もともとの計画策定のときには「3クラスに1クラス程度」の整備率ということを目標にし、当面の間は、そして最終的には児童・生徒1人1台の整備率ということをしておりましてけれども、御存じのようにGIGAスクール構想ということで、もう既に1人1台の整備は実施を

されているということで、20年度、21年度、100%、100%ということでもあります。

ただ整備しただけかといいますと、利活用のほうでは、今回こういった学級閉鎖とかいろいろある中で、または待機児童もおります。そういった児童・生徒に対して、タブレットを活用した、Zoomを利用した授業形式を行っているというところでもあります。

次に、その下、教職員研修です。20年度は、コロナの中でも、タブレットが最初に入った年でもありましたので、25回ということで回数を重ねてやっております。全体でなかなかできなかったということもありましたので、学校へ出向いて研修を行ったり、これは教職員の研修ですけれども、そういったことを行ったということでもあります。今年度についてはまだ9回ということでもあります。

次に、グローバル化への対応ということで、今年度についてはまだ、年3回やるわけですけれども、3回目はこの前実施したばかりですので、まだ結果が来ておりませんので少し結果は出しておりませんが、20年度はどういう状況かということ、英検3級等以上の英語力を有する中学生の割合ということで、少し下がっておりますね、2018年度から比べますと、6.5%という状況です。中学校、最終目標は30%というえらい高い目標数値を上げておりますけれども、頑張っただけで今後も努めていく必要があるなというふうに感じております。

それから、英検4級以上の英語力を有する小学生及び英検4級の英語力を有する中学生の割合ということで、それぞれ下を書いております。4級以上の小学生、中学生については、それぞれ最初の年よりも上がっているという状況であります。

次に、英検5級ですね、英語力を有する小学生の割合、2018年度は2%でしたけれども、現在は3.4%という状況であります。

めくっていただきまして、次に教員の資質向上の中で、教職員の時間外勤務削減と多忙化解消ということで、今、勤務の適正化ということで働き方改革というものが行われております。教育委員会においてもそれは推進しておるところですけれども、時間外勤務1人当たり平均時間数は45時間、小学校においては45時間を下回る状況が続いておりますけれども、中学校においてはやはり45時間はなかなか厳しい部分がありまして、少し45時間を上回っておるという状況であります。

それから、年休取得の状況です。年休取得については、現況値と20年度を比べていただきますと、かなり改善されているということは見分かりますけれども、今までは1から4日という職員が5人おりましたけれども、ゼロという状況になっておりますし、10から14日、15日以上というところが数字が増えてきているということで、年休取得は進んでいるんだということです。

教職員のストレスチェックの実施率ですけれども、30年度から少し実施率が下がっていると

いうところであります。ほぼ横ばいということになるのかなというふうに思います。

ただ、教職員のストレスチェックにおける高ストレス者の割合ということですが、20年度においては、4.3%の割合でストレスを抱えている職員が増えているというふうに言えるのではないかなと思います。まだ今年度についてはちょっと結果として出ておりません。

次に、これは子供たちに対することなんですけれども、全国学力・学習状況調査の中で質問事項がありまして、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思う児童・生徒の割合というものを個に応じたきめ細やかな指導と授業改善の中の指標として上げてございます。2019年度が、小学校78.6%、中学校83.5%ですけれども、小学校はちょっと下がっておりまして、逆に中学校は上がっているという状況です。

それから、新しい時代を生き抜くための基礎となる学力の定着、こ・小、小・中の連携強化ということで、こ小連携協議会の開催数ということですが、年2回ということで、20年度は年2回開催しました。21年度はまだということであります。

今度、自己肯定感・自己有用感の育成というところで、これも学力状況調査の中で出てくる質問項目なんですけれども、自分にはよいところがあると思う児童・生徒の割合ということですが。2019年度は78.6%、中学校においては72.1%でした。去年は、その1つ上の指標と一緒にすけれども、新型コロナウイルス感染症でこの調べが中止でありましたので数字としてはありませんけれども、2021年度は、小学校は下がっているんですけれども、逆に中学校が上がっているという状況でもあります。

次に、生涯にわたり学び、活躍できる学習環境の創出ということで、図書館のほうでおはなしを楽しむ会の開催を予定をずうっとしております。ただ、やはりコロナの関係でなかなか開くのが難しいということで、去年、今年ともちょっと開催が見送られているということであります。当然収まった段階なり何かでは年3回以上の目標に向かってやっっていこうということであります。

以上、結果を報告的にお話しさせていただきました。以上でございます。よろしくお願いいたします。

○荒川参事兼総務課長 ありがとうございます。

今、基本計画に対する進捗状況ということで御報告がありましたが、これに関して何か御質問というか、御意見等ありましたらどうぞ。

○田中委員 働き方改革で、超過勤務か何かをどんどん減らすの、ここ何年間か一生懸命やっている、成果があるかのように見えているんですけど、例えばトヨタ自動車で自動車をつくるラインにいる人とかいったら、労働時間を減らせば、あと自由時間になるわけですけど、学校の先生というのは往々にして裁量労働のところがあって、一生懸命あしたの授業の準備をしてお

ると切りがないんやね。労働時間が減ったというけど、その減った時間は本来ならば全く違うことに使われるものなのかもしれんけど、これはどんなもんなのかね。

いわゆる昔、風呂敷残業というて、うちへ持って帰ったり、ここはセキュリティーの関係でできんのかもしれんけど、USB残業とか、実際はどんなんかね。働き方改革とって、この数字だけもってできるもんかなと。自分は裁量労働の最たるところにおったもんで、誰にも強制されない世界におったもんで、その実感を思い出すと、どうやって成果、これ国会でも減ってきたでいいですねということになると思うんやね。それでも先生方は実際はどうかな。

○松井教育委員会教育課リーダー まずこの数字のことにに関して申しますと、まずこれは退庁は間違いなく早くなって、退庁というのは学校から出ていくのが間違いなく早くなっているのは確かだと思います。

と申しますのは、いつときやはり時間を操作するということが横行しておりまして、要するに早く帰っているように見せかけるみたいなパターンですね。そういうのもあったりして、そういうのは度々修正といいますか、教育事務所のほうからもいろいろ出ておりますので、まずこの数字は間違いなくきちっと学校は閉庁している。

○田中委員 学校は出て。

○松井教育委員会教育課リーダー 皆出ていっているだろうというのは間違いはないと思います。

ただ、先生方が本当にそれで心休まるあれをしているかどうかというのは、また家へ帰っていった何かいろんなことをやってみえるのは、どうかなというのはあると思いますけれども。

間違いなく退庁はしていっているというふうに思います。

大分精査されていると思います。

○箕浦委員 中学校の部活が遅くまでは多分やっていないと思いますし、やらない日もあると思うんですけど、確かに時間が狭まっているというか、少なくなっていますね。

○田中委員 部活はね。

○箕浦委員 ただ、コロナが収まるとこれまた減るといふばかりではないと思います。

○木野委員 これって前から言われているよね。そもそもそれを勤務時間ではかるようなものかという話が根本的な問題としてあるような気がする。

ただ、ここで多分何でこういう話が出てきたのかといえば、少なくとも物理的に制限することによって多少は解放される部分があるだろうということで、これも要はメルクマールの一つとして置いたということなので。

○松井教育委員会教育課リーダー そうですね。

○木野委員 だけど、内心の意思としてだったら、それは我々も含めてそうなんだけど、ここから離れたから問題が解決したと簡単にスイッチのオン・オフできるようなものでないことも事

実なんやね、仕事の性質そのものが。だから、これは一つのものとして取ると。これが全てではないという。

じゃあ、これに代わる何か物差しが、適切な物差しがあるならば、この物差しのほうを考える努力をどこかですべきだろうという気はしています。松井調査官が言ったように、これだって物理的には締め出せば帰っていくんです。

○松井教育委員会教育課リーダー そうなんです。

○木野委員 今日は8時で消灯やとか7時で消灯やと言えば、いなくなるんですよ。いなくなったから仕事から離れるかという、そんなことは全然そうじゃないので。

○松井教育委員会教育課リーダー 一応水曜日が早帰りデーと、県のほうでは8のつく日が早帰りということになっておりますので、当然そこでは各学校でも校長とかが呼びかけて早う帰りましょうというのはやっていますから、間違いなく早く帰っていつているというのはだんだんなっていつているんでしょうけど。

○木野委員 言ってみれば時間で管理するものというのは、昔あしき前例があって、上司がおるうちは帰らんようにして、そういうのに比べれば、時間が来たから帰りましょうという話になれば、帰るよねということなので、一つとして意味はあるけれども、これで全てがはかれるものじゃないなという気はしておく。

ただ、ちょっと気になるのは、何で小学校は達成できるけど中学は達成できていない。

○松井教育委員会教育課リーダー やはり中学校は部活とか、部活も大分少なくなってきたというのも、本来は、今回コロナの関係もあって、なかなか部活ができていない部分もあって、それでもまだやっぱり45時間というのはなかなか難しい部分があって、やはり部活とかそういったものがあって45時間をクリアするのはなかなかハードルが高いなという。

○木野委員 問題は、これが学校だけで矮小化すべき問題じゃなくて、そもそも勤務時間、今言ったように部活だとか云々という話になると、それを別の制度との整合性の中で移管していく努力が必要じゃないかと、地域型のスポーツクラブをつくるとか、そういう話の中で、そもそも学校の先生が本務ではないけれども本務みたいにやってきた部分をどうやってそこへ移行していくかという議論とセット物の話なんです。

○松井教育委員会教育課リーダー そうですね。県のほうも部活動指導者という名称でしたかね、要するに先生の代わりに大会とかそういうところも出ていって、いわゆる仕切るといふ部分もやるという人も地域の中で見つけてやっていこうという動きはありまして、輪之内のほうもいわゆる社会人コーチの方にいろいろ入っていただいていますので、その辺はかなり改善はされつつあるというふうに思いますけれども。

ただ、大会とかそこまで全部その人におんぶにだっこというのもなかなか難しい部分がある

ので、それはおいおいなくなっていくんだろうというふうに思います。

○木野委員 だから、こういうデータから見えてくるものについては、逆に言えば、どの部分をどうすればこれだけの部分が量的には減らせるはずだというような、そこがやっぱりアウトカムの目標値になるはずなので、書くんならそこまで書かないといけない。この計画に書くかどうかは別として。だから、さっきほかの項目もいろいろ報告があったんだけど、その報告が持つ意味、事実はこうですよという。

だから、我々がここで議論したいのは、正直言うと、だからどうなんやと、何をすべきなんやという部分に立ち入ってこないと、みんながわざわざここへ集まって、それはそうなんやけど、それで何なんやと終わってしまっただけは意味がないという話だと思うんです。ちょっと余計なことかもしれんけど。よろしく願いいたします。

○市橋（肇）委員 今あれなんですね、ちょっとスポーツ関係の活動関係ですけど、輪之内はちょっと私しっかり分からないんですけど、大垣なんかですと、スポーツ少年団に入っている人数が激減しているんですね。それから、中学校の部活動はどんどん減少しています。体育関係だけです、スポーツ関係だけ。

したがって、中学校の部活動でも、今般、クラブによっては、安八町の中学校と輪之内の中学校で野球部は合同でやらなきゃいけないとか、そういうような時代ももう来ているので、ちょっとスポーツ関係の部活動のそういう指導のために部活動従事者というのは少なくなってくる傾向にあるように思う。

それで、だんだん民間、ほかのスポーツ団体、例えば野球部ですと、どここの何々スポーツとか、何々野球部とか、そういったところへ、硬式野球がいいのかどうか分からないんですけど、軟式から一挙に硬式野球のほうへ行ったりなんかしているところが結構見受けられるようになって、スポーツ関係の部活動の在り方というのが学校からだんだん離れていく傾向にあるように私はちょっと感じているんですけど。

○田中委員 昨日、教育長さんから教育事務所長のプリントを頂いて、管理職の試験に指導要領の中の3つのポイントを言えというたら言えんやつがようけおったというので、見た。知能、知識、漢字が書けるとかと、それからそれを考える力、それからそれを推し進めようとする力、この3つがある。昔は知・徳・体と言ったような気がするんや。「体」があったんよ。もう既に消えておる。何か体育でもいいので、やろうとする技術、体育の場合、技術と、これを工夫してやる力と推し進める力というて、「体」とは書いていないんよ。ただ、体育もあるので、やるんだろうけど、昔の力の入れ方とは変わってきたんやね。世の中が少し変わってきたので。

それで、僕思うんですけど、自分は体育全然駄目やったんでストレスで言うんですけど、体育ができるということと同じように、音楽ができるとか、絵が描けるとか、漢字の書き取りが超

すばらしいとかいう特技と同列になってくるような気がするんやね。そうすると、当然減っていくわね。減っていくときに、担当者という人は物すごく危機感を訴えると思うんだけど、でも世の中多様化の時代なので、こういう時代かなど。でも、輪之内町にやらせたときに、体育は物すごく体育協会頑張ってみえるのでいいんだけど、ほかのところをもっと伸ばさんとという、ちょっと話が学校教育からずれるけど、僕はそう思う。多様化の時代になってきたなど。

○市橋（肇）委員 あと、今のお話の途中ですけど、ちょっとだんだん部活動、スポーツ関係は学校から離れていくんじゃないかということに対する危惧として、だんだん柔道じゃなくて柔術を教えるとか、テクニックばかりに走って、本来の道というか、本来の精神的な支柱を持って教育する指導者に恵まれていけばいいんですけど、ともすると商業、コマーシャルベースの話ばかり念頭に置いた指導者のところへ行くと、勝負にこだわったりいろいろしますので、本当の昔のいう知・徳・体でいいんですけども、体育という教育に付随している、我々が目標とする、いろんな意味で精神的な、それから心身の話と両方を育てていくという本来の道から外れていきがちなので、必ずしも民間のいろんなそういうスポーツ団体が僕はいいとは思わなくて、むしろ学校において、そういうスポーツの指導をしている人たちがマナーをきちんと教えたりなんかしているということは、これからも大事にしてほしいなど。だから、下手に民間ベースに合わせる必要が必ずしもいいようにはちょっと僕は思っていない。

体育施設のほうで従事しているときに、そういう、ともすると指導者がちょっと欠落しているんじゃないかと、思い違いしているんじゃないかというところが思われるので……。

○田中委員 技術はやるけれども心がついてこん。

○市橋（肇）委員 そういう点はやっぱり学校の先生たちの御指導のほうで僕はいいように感じています。

○木野委員 ただ、評価の中で何が重視されているかというところ、そこが重視されているからこそ、なかなかいわゆる学校の部活というのが地域型に移行しづらい部分があるというのは、まさしくその部分なんです。

社会体育、こちら側の要するにプレーヤー上がりで、その競技をやりたい、競技力を強化したいと思っている人のアウトカムって何だろうと考えると、それは今まで12秒で走っていたものが11秒になることだろうし。でも、それは結果ですよ。でも、学校の先生というのは、たとえそれが12秒が11秒半にしかなくても、努力したねという部分を見るじゃないですか。どこを見るかという話なので、そこがやっぱり市橋委員が今おっしゃったとおりなんで、その部分が解決できないから、なかなか部活動が全面的に移管できない部分なんですよ。

でも、それを言うと、逆に言うと、やっぱりそれは教育の一環として教師がやるべきやという議論にまた戻ってしまうので、どの部分を分担して、本来の部分を損なわずにそちらへ移管

できるかという。だから、本来の問題として、そこで出てくるのは多分指導者の教育だとか、研修だとかという話になってくるのではないか、それをやるのという話になると。非常に難しい。だから、やってもらおうというふうに学校の先生方がやっぱり教育方針に基づいてやろうとすると、どうしても指導者の指導者が必要になってくる。そういう部分ですよ。

だから、逆に言うと、そこは物事どの部分を分担するのと。最終的な統括は誰がやるのという話をきちっと踏まえた中で役割分担していかないと、競技力さえ向上すればいいという話に。それは外向きにはアピールしやすいよね、勝った勝ったと。それは、ここで言っている効率化の議論とはちょっと違う。それをどうするかという話になる。

今おっしゃったことを含めて、逆に言うと、何で見ましようかねという話やね。何か適切な測定単位なり何なりが出てくるのかどうかということになる。逆に言うならば、ここで議論してもらって、どういうあれでというものが出てくるとうれいなという気が。それがやっぱりここ独自の総合教育会議の持っている何か意味づけにもつながってくるような気がするんですけどね。

○田中委員 さっきいろんなことを言ったのは、ちょっと町長さん言われるように、今日結論が出なくてもいいので、みんなが宿題で頭の中に持っておって、事あるごとに茶飲み話でやって、次第に練り上げていかないと、県が言ってきたで、それじゃあそういうふうにやろまいかとかいう話じゃなくて、やっぱり輪之内色が出てこないと、昔、岐阜県の知事さんで岐阜モデルとかいうて、あそこまでは僕いかんでもええと思うけど、それでも輪之内はああいうふうやわと言われるぐらいの理論の練り上げがないと、僕は欲しいなと思います。

今変わっていくときなんで、その次に出てくるのは何やというと、プールの問題やね。多分今年どこも使っていないと思うんやね、今年度。去年も使っていないと思うんやね。本当にそうや。町長さんに言われるかどうか知らんけど、プールじゃなくて、そういう施設いうて3年使わんなら要らないかという話になってきてしまうので、切実な問題としてそれが出てきて、例えば海津はやめてしまったとか、大垣は市民プールをやめてしまったとか、耳に入ってきます。そうすると、そのときに考え方をきちっと持っていないとね。小学校のプールを埋めようという話ではないんで、でも使うんなら使うでどう使うとかいうのをここで議論しないと、現場の意見は聞くんだけど、やっぱり町がどう思っているかというのを練っていかなとね、そろそろ練らないと。

○木野委員 そうだと思うよ。

○田中委員 それからも一つここで、ちょっと話がずれてしまっているけど、大藪小学校の来年の入学生が33人ぐらいとかいって聞いて、その次が26人ということになってくると、今までは町内では大藪小学校だけ伸びておったけれども、どんどん3小学校が小さくなってくと、

どうするだというのがそのうちに出てくるので、そうするとこれも、多分僕の目の黒いうちでは結論は要らないかしらんけど。

○木野委員 それはどれだけ生きられるか分からんと私に言われても、ちょっと評価のしようがない。

○田中委員 当分はいい。

○木野委員 我々が頭がクリアで議論できる期間ぐらいは大丈夫かも分からん。そろそろぼけ出した頃には分からん。

○田中委員 そろそろ議論を始めないと、岐阜で市の中心部のところが統合した。統合するのに時間がかかった。やっぱり小学校というのはみんな思いがあるので、中学校、高等学校と違うんやね。いろんなことが出てくるので、そろそろみんなで考えないと、先々どうなるんかなんということ。

○市橋（肇）委員 一つの指標として、今、海津のほうで5小学校を1小学校にするんですか、高須に集めるといような考え方をやっていますが、あれがどんな背景でどういくか、前々のこの教育委員会でもちょっとお話ししたんですけど、よくその辺を調べておく必要性は少しはあるように感じるんですけど。

また、そのニーズがあるかどうかということがやっぱり一番大事になるので、そういう状況を、どこでそういうトリガーというか、出発する、キックオフするという意思に傾いたのかということ、ちょっと前例を調べておくことはいいかなとは思いますが、それぞれの場所によりますけど。

○田中委員 同じような話なんだけど、この間、白川村の白川郷学園というのを見てきたら、僕は過疎のところやで複式の学校やと思っておったら、全然違っておって、小学校2つと中学校1つを一緒にして1年生から9年生までやるというときに、物すごく理論を練ってあるんやね。あの練ったことが成果やなと思って、学校ができたことよりも、どうあるべきかというのを。

最近、あちこちで小・中の一貫のやつというて、岐阜もできたんかね。

○市橋（肇）委員 一貫教育ですね。

○松井教育委員会教育課リーダー できています。

○田中委員 それから、世田谷にも。要するに教育目標を達成するためにやっとなと、過疎じゃなくて。そういう議論も要るんかもしれんね。輪之内、ちょうど僕らは、町長さんも僕もあまり年が変わらるので、あの辺の人が偉いさんになったときにそろそろ考えなあかんということ。そうすると、今から議論しておかんといかんのかな。

○市橋（肇）委員 いろんな意味で低年齢化どんどんしているじゃないですか。教育のあれなんかも小学校に英語とか何とかが導入されるとか。

そうすると、基本的に教育の現場というのが、今、義務教育で小・中とやっていますが、今、こども園のレベルから、都会並みに、慶應幼稚舎から慶應大学までというような感じの一貫した教育というものの在り方を、私学だとやりやすいんですけど、義務教育のほうではどう考えていくかということは、いずれは考えなきゃいけないと。

どんどん今、低年齢化しているんですね。我々が育った環境に比べると、いろんなグローバル化のための対応の基礎知識なんかも低年齢化してきているわけですから、そういう意味では、これからの課題としては、6・3・3制とか、こういった教育制度の在り方もいつかは議論、常に、今、文科省でもしていると思いますけど、そういう時代には少しは入ってきて、その中において輪之内はどういう考え方をしていくかということは、これから整理していかざるを得ないだろうと思いますけど。

○木野委員 むしろ我々のほうから見ると、行政側の議論と保護者の議論とはちょっと違うと思うんですね。

行政側の議論ってどこから出発するんだろうというのと、多分小・中学校の統合が始まる前、今、文科省がえらい標準の学校規模というのを持っていて、ただそれに必ずしも従う必要がないと言っているんだけど、ただきっかけになるのは多分、単学級の場合は問題にならずにそのままいくと思うんだけど、複式学級になると、それは教育効果だとか、人員配置の問題だとか、いろいろ行政的にも問題が出てくるので、それがきっかけになるんだろうと。その数字というのが、実は突然発現するんじゃなくて、何年か予想されていることですよ。少なくともその予想される年次に向かっては結論を出す努力はしなきゃいけないので、実はそんなに遠い話ではないのかもしれない。

ただ一方で、学校教育って学校だけで成り立っているものじゃないよという。特に義務教育小学校というのは、地域との連携というのがいろいろあるので。だから、非常に、さっき例に出たお隣さんの学校統合というのは、一つ物すごい実験だろうと思って見えています。正直言って、あれは下手すると地域の破壊につながってしまうので、地域の連携だとか、絆がとか、何か言っているところがどこかへ飛んでしまう感じがするので……。

○田中委員 丁か半かやね。

○木野委員 ちょっと危険な賭けだろうなど。その割には、さっき田中委員がおっしゃったような、練られた中で、何を目的にしているんやということが表へ出た議論になっているかというのと、ちょっとそれ……。

○田中委員 お隣さんやけど聞こえてこないね。

○木野委員 聞こえてこんでしよう。

○田中委員 うん。何か聞こえるはずやよね。新聞、ニュースにもちょろっと出てきたり、なん

だけど、ないよね。ただ数の論理と予算の論理しか想像できん。

○木野委員 あそこで学校統合で出てきたのって何やといたら、新聞で言われておるのは地域対立だけです。そんなものは本質とは何にも関係ないので。

○田中委員 むしろ白川みたいに、統合したことによって地域のつながりが……。

○木野委員 そうそう。

○田中委員 ということが本当は理想だわね。

○木野委員 だけど、そうはっていない。マイナスの作用をしておる部分だけなんで、あれは多分、今現実に目の前に出てきていないのであまり問題が表へ出てきていない。あれは現実じゃあ来年からやりますとかという話で出てきたときに、このままいくのかなという気がします。ただ、これ以上言いません、よそのことですから。うちのことをやってもらえば。

○田中委員 いや、輪之内で出てきたときに、そういうふうにならんように、これをきっかけに輪之内がより緊密に中を見てというふうというのが理想的だね。

○木野委員 だけど、そういう議論を本当にかんかんがくがくやって、やっぱりここは義務教育を9年間を通してやったほうがいろんな形でやりやすいということになれば、そういう議論もできるやろうし、地域を壊さなくてやれるよと、もしくは仮に少し壊れたとしてもそれ以上のメリットが何か見いだせるようなことがあるのかどうかということ、その部分をやっぱり説明した上でやらないと、行政が勝手にやりやがったという話。

現に、それで、どこの県とは言いませんけれども、かなりひどい話になっているところもありますのでね。

○田中委員 高山も一段落したみたいなので、あそこは統合に統合をした。役所なんてすごいよ。吸収合併やというので、対等合併じゃないので、来てもらわなくてもいいよ、机廊下に置いてあるで、あそこでよかったらという時代があって、今は一丸となりつつあるもんね、あそこの市。学校やなんかもなしにして、何か3つぐらいに1つ小学校とかにして、今動いておるみたいなんで、それよりも発言する人が年寄りになっていって、人口が減っていって発言できなくなっていったのかもしれんけど。

行ってみると、話をしてみると、それなりに地域の団結力も出てきておるので、あのときの吸収合併といって大きく言ったのが、ちょっと安定したのかなと、あそこの市も。それは雨降って地固まるけど、固まらずにパンクして終わりになるかもしれんね。それはやってみると分かん。

○木野委員 雨降って地固まる、いい言葉だけど、雨降ってどこかの勢力が消えたために文句が言われんようになっただけという部分もあるので、なかなかこの部分って難しい。

けど、難しいから避けて通るんじゃなくて、難しいからこそ上げて議論していくというのが

大事なので、その結果なら、どっちへ転んでも、やっぱりそこは文句を誰も言わない。誰が決めたんやという話が第一声で出てくるようでは、学校統合ってうまくいかないです。そこを踏まえ。

ちょっとこの一番最初の議論からだんだん外れちゃったけれども、この最初の議論に戻って言わせてもらおうと、人間が減ってくる、対象児童が減ってくることによって物理的に時間が縮小されることもあるがね。これがその成果やったのかどうか。要するに、自律的なものなのか、他律的なものなのか。この時間でカウントするということの意味はかなり幾つかの要素がかみ合っているんで、そこの分析が要ると思う。

○市橋（肇）委員 解析ね。

○田中委員 教育事務所は、児童の数が減るとぐっと減らしよるで、人員を。

○松井教育委員会教育課リーダー その45時間というものを、例えばこの計画、5年物ですので、令和6年か5年で一応しまいますけれども、その後、それを30時間にするのかというたら、そうではないとは思いますが、そういう議論にはならないと我々は思っているんですけど。今の45時間が妥当な線であろうというふうには我々は……。

○田中委員 昔のISOみたいに限りなくゼロにするのはあかんだろう、まだ。

○松井教育委員会教育課リーダー 限りなくゼロにするというのは、当然それは無理な話ですし。

○市橋（肇）委員 あと、私ちょっとあれなんですけど、今回のコロナの関係で、リモートという話が出てきていますよね。働き方というので、先生図らずも言われたんですけど、裁量労働制とか何とかといって、こっちを使う仕事は必ずしもその場所にいなきゃいけないかどうかという議論にはだんだんなっていくと思うんですよ。

だから、今考えているのは、例えば昔ですとタイムレコーダーがあって、そこを出るときにガチャンと押して出るから時間で管理するという考え方だったんですが、裁量労働のようにだんだん出来栄で勝負するという時代になってくると、働き方そのものも指標も変わってくるやに思うんです。だから、アフターコロナで、これからリモートの仕事をいかに取り組むかということは一般の社会なんかもやってきているので、そのうち教職員の方々のほうにも働き方の質が変わってくるやに僕はちょっと思うんです。

持ち帰り残業というのが必ずしも僕は悪いとはちょっと思えないんですよね。ある程度気分転換しながら、いつも殺伐としたオフィスの中でやっているのがいいのか、自分の快適だと思う環境で仕事が継続できたらいいいのか。先生の仕事って、例えば次の授業のための仕掛けをやらんならんとするのに、必ずしも学校にいなきゃいけないとは限らないんじゃないかということもちょっとこれからは出てくると。

だから、やっぱりこの働き方というのは、今は時間で見ているんだけど、パラメーターは変

わってくるというふうに僕はちょっと思っているんですけど。

○木野委員 確かにそうなのでしょう。ただ、共通の場所にいることによる逆に違う意味での効率化というのが出てきて、変な話だけれども、知らないことを一々自分で調べるより隣の人に聞いたほうが早いというあれもあるので、どこでそのパラメーターというのか何ていうのか、そういったものを何で見つけ出していくのかということは常に考えていかないと、確かに今働き方は変わってきているので。旧来の物差しでそれをはかっちゃうと、時代に合わないよという話にはなりますよね。

だからこそ逆に、今はこういう形で目標値というのを決めてやっているけれども、もっとさっきも言ったように違うものを利用しているよねという。その何かを見つけ出すのがやっぱりこの議論だろうと。

○田中委員 先生方としてはちょっと能率を上げて、この時間までにできることなら切り上げて、形だけでも帰るとかという意識は出てきたはずなんで、部活もお互いに生徒と先生が満足するまでどんどんやるんじゃないかと、ちょっとというのが出てきたのはプラスなんだろうけど、じゃあ今度どうするというと、ちょっと大分議論しなあかな。

○市橋（肇）委員 だから、意識だけの改革である程度までは下がるんですけど、それ以上は絶対的に下がらない。物理的にやっぱり人数が欲しいよねとか、そういう話になりかねないですよ。

○田中委員 この間うちでニュースを見ていたら、忘年会とか歓送迎会は時間内にやるんだって、2時からとか。時代が変わったな。要するに裁量労働制になってきたということですね。なるほどなと思って。

○松井教育委員会教育課リーダー 断れんやないですか。

○田中委員 いやいや、だから仕事として忘年会をやるんや。

○市橋（肇）委員 それはコアタイムでやらなきゃいけないから、裁量労働の場合は、だから2時だとか何とかになるわけです。コアタイムが時間が狭いんですよ。その中で、束縛して、どうしても集める、意義ある事業だというふうに思っているということです。

○田中委員 町長さんさっき言われたけど、やっぱり顔を合わせて対面でやらないかんから、これやっておるわけやね。これにもうちちょっとあると、もっと議論があればけど、要するにそういうことやんな。2時から忘年会とかいうのは。

○松井教育委員会教育課リーダー なるほど。

○田中委員 まだ1週間か2週間前の話やよ。

○市橋（肇）委員 だから、裁量労働制でリモートで仕事いいと言っているけど、ある程度は顔を見なきゃいけないだろう、通達しなきゃいけない、指示も出さなきゃいけないための時間とし

てはコアタイムというのを設けているんだと思う。

○田中委員 上意下達だとかお互いの連絡調整の会議は、いわゆるトヨタさんがよく言っている会議は30分以内でとかいう話になってくるけど、やっぱり座ってやらんと、こういう話は。

○木野委員 最近、いろんなところでリモートの会議がすごくあって、ちょっと別の仕事ももらっているんで、週のうち何回か本当にリモートで会議をやっておるんですよ。昨日も半日モニターの前に座っておったら、座っておるの疲れるんやけど、そういうのをやっていると、リモートのよさというのも分かってくるんだけど、逆に、これをやっていると、ちょっと集まってやった会議と何となくずっているよな、結論がということも感じるわけです。それは両方知っている人が言えることなので。

だけど、今のデジタル世代だと、こういうもんやと思ったら、それで済むことかもしれん。

○田中委員 そうかもしれんね。

○木野委員 ちょっと時代が変わってくるときに、あまり昔のことを言っておると、何を言っておるんや、あいつと言われそうな気もするので、問題点は指摘するけれども、だからどうなんだということはなかなか言いづらいことは本当はあるんですよ。

だから、これいろんなことをやっているんだけど、変な話、何をもって評価するかという話になってくると、絶対的な評価というのは、絶対的な評価者がある以上は裁量労働が一番公平なんですよ。絶対的な評価者がいる大前提ですよ。でも、そんな全知全能の評価者なんていませんよね。そうすると、どこかでこういう形で分かりやすいパラメーターをつくるというのか何ていうのか、そういう形しかできないよねと。

だから、これは変な話、物差しは不断に変わっていくよね。変わっていくときに、合議制の議論をきちっとしていかないと、勝手につくった物差しに合っていないからといって否定的な評価なんてするのはおかしいよねという話になってくるので、そこはやっぱり議論することだと思うんですよ。

これは今までもずうっとそうやったよね。裁量労働制がどうのこうのという議論をしているときでも、じゃあその仕事は何で裁量労働の対象なのと、ほかのものは裁量労働の対象にならないのといったときに、今、労基法なり何なりで裁量労働といって規定されている部分が、何であればじゃあ限定されているんだろう、ほかだって同じようなことをやっているじゃないという。

でも、それはその部分に限定された意味の部分で、その意味の変化があるならば、その変化について議論する場がどこかであるはずやわということが、輪之内の場合でいうなら、少なくともこの教育振興計画の達成目標という意味においてはここしかないよねということが、やっぱり皆さん議論の前提としてお持ちいただくとありがたいかなとは思っています。

すみません。45時間を議論するつもりはなかったんですけど。

○松井教育委員会教育課リーダー ちゃんと退庁時間を我々もごまかしません。

○荒川参事兼総務課長 じゃあ、1番目のこの計画の進捗状況については、よろしゅうございませうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○荒川参事兼総務課長 それでは、2番目、令和4年度の当初予算編成についてお願いいたします。

○野村教育委員会教育課長 失礼します。

令和4年度教育課所管分新規・主要事業検討事項を御覧ください。

初めに、訂正をお願いします。

次ページをお願いします。

17. 小学校費、25. 中学校費の主な内容というところで、「樹木選定」とあるんですが、「剪定」の漢字を間違えておりましたので、訂正のほうを2か所。お願いします。

もう一点です。20番の登校支援事業の目的というところに、福東小学校の後に訳の分からない言葉が出てきますけど、これは「遠距離通学」と訂正をお願いいたします。誠に申し訳ありませんでした。

それでは、内容に入ります。

教育費の令和4年度の当初予算は4億5,924万6,000円を計上いたしております。積算中の部分も多くありますので、金額につきましては変わる可能性があるということでお願いいたします。

新規・主要事業として13項目を上げさせていただきました。簡単に御説明いたします。

2番です。地域学校協働活動推進事業は、令和3年度の新型コロナウイルス感染症対策により、会議等の中止・延期がございました。感染対策をしながら引き続き事業を進めていく予定でございます。

5番目です。情報教育推進事業は、ICT支援員の配置を生かし、ICTを活用したプログラミング教育を推進し、ソフト面のほうをさらに充実させていきます。

6番目です。同じく情報教育推進事業中、学習者用デジタル教科書導入事業です。令和3年度は、各小学校で1教科のデジタル教科書を導入しました。小・中学校全学年、さらにもう一教科のデジタル教科書を導入する積算となっております。

8番目です。英検等検定受験料補助事業は、英検においては、小学校が5級以上、中学校は4級以上を受験する児童・生徒に年1回全額を引き続き補助します。新規事業として、漢検・数検受験料の補助を始めます。国語・数学の教育の充実を図るため、漢検においては小学生が

6級以上、中学生は5級以上を、数検においては、小学生が7級以上、中学生は6級以上の検定受験料を英検と同様に補助するものです。

9番目です。英語教育支援員配置事業です。現在、各小学校に1名ずつ支援員を配置しておりますが、令和4年度も同様に配置し、英語教育に力を入れていきます。

10番目です。多文化共生教室開催事業です。令和3年度、新規で上げさせていただきましたが、新型コロナウイルス感染症対策により県の日本語教室が令和4年度に延期になりましたので、引き続き次年度で実施いたします。

11番目です。特別支援員配置事業は、支援員を各小・中学校に配置を予定しております。学校の実情に応じ、学習障がいや軽度の発達障がいのある児童・生徒の教育支援及び援助を行います。

次ページをお願いします。

14番目です。音楽の町推進事業は、ピアノの活用を通じて地域のつながり、絆を強化し、地域の活性化を図ることを目的としております。オープニングとしてピアニストを呼び、スタインウェイピアノを1日無料開放いたします。その後、文化会館のスタインウェイピアノを日時を決めて有料での貸出しを考えています。

19番目です。夏休み寺子屋教室開催事業です。令和3年度は、夏休みに10日間ほど実施いたしました。令和4年度も夏休み中に寺子屋教室を開催する予定です。各小学校の常勤講師が講師として対応するので、予算計上はございません。

21番目です。留守家庭児童教室は、例年どおり開室をしていく予定です。新型コロナウイルス感染症対策により、各校区を3教室から6教室にして開室をいたしております。

次ページをお願いいたします。

27番目です。防災士養成事業では、防災士養成講座を中学校2年生を対象に行っていく予定でございます。計上する経費といたしましては、テキスト代、講座の開催委託料、受験料、登録料を予算計上いたしております。

最後です。34、35、学校給食事業です。学校給食総務管理事業では、学校給食施設の管理業務等の経費を、給食供給事業では、調理業務委託、賄い材料費を計上しております。センター方式による学校給食の安定供給と地産地消の推進に努め、安全・安心な完全給食を提供いたします。

以上が新規・主要事業でございます。よろしくをお願いいたします。

○荒川参事兼総務課長 どうぞ。

○田中委員 予算のほう、例えば14番のところに括弧が書いてある。これはどういう意味。

○野村教育委員会教育課長 すみません。ちょっと見にくいんですけども、この括弧の中は内

訳ということで、例えば一番最初のところだと、多文化共生事業の予算は2,335万5,000円で、そのうちの英検受験料は110万円、括弧は内数ということでお願いします。

○田中委員 ここで言うことではなかったかもしれんけど、給食センターが出てきたので、実は僕、給食センターを見たことがないんだわ。いずれ見たいなと思うんですけど。

かつてコバエが入っていて、コバエを気にしてやっておっては、学校へ行って、給食でコバエ探しをやっておるような子供を教育してはいかんから、コバエのことは言うなとかという県の通達があったわね。入ってきたんですよ。大藪小学校へ入っておった。多分みんな入っておるんだわね。この頃聞かんけど、そういうトラブルというのはないんですか。それとも大したことはないの、うちのところの耳へ入っていないのか。

○野村教育委員会教育課長 今年度はないですね。

○松井教育委員会教育課リーダー 今年度はないね。

○野村教育委員会教育課長 去年はビニール片か何かが入ったことがありますけど、今年度はないです。

○田中委員 そういう事故のときは、どうやって対応してみえるの。あった、あかん、気をつけよぐらいの話なのか、もうちょっと何か対応される。いいです、いいです。どうかなと思って聞いただけですから。

○松井教育委員会教育課リーダー その入っている物にもよります。例えばコバエですと、我々、熱が加わっているのかどうかとか、込み入ったことを調べたり、検査に出します。

あと、ビニール片とか何かですと、まずどこで出た物かというのは当然調査します。それが給食センター内の物なのか、それとも材料に入っておった物なのかというところを、そこを調査するということになります。例えば材料に入っておっただと、そこにまた……。

○田中委員 業者さんが入っておるわけやね。

○松井教育委員会教育課リーダー そうです。

○田中委員 その人と町との責任関係は、センター長も輪之内町の職員なんで、そうすると町の責任になるんかね、検討しなきゃいけないのは。

○松井教育委員会教育課リーダー 一応委託事業ですので、主として町が行っている事業でありますので、なりますね。ただ、その調理業務の中で起こっておることであると、その調理業務の委託業者にどうなっているんやという責任のあれはできると思います。

また、そこで使っている材料の中に入っているものがたまにあるんですね。例えば昔ありましたが、金みたいな物が入っておったことがあった。

○田中委員 よく新聞でも出てくるね。

○松井教育委員会教育課リーダー それで、その業者のほうに言うて、それはそこの施設の改善

とか、そういったことをお願いしたりとか、そういったふうに進んでいくということもありますので。

○木野委員 ちょっと今分かりづらい発言をしていますけれども、要は基本的には町の事業ですよ。今、公会計に移行した以上は町の事業という話ですから、最終的な費用負担者としては町の責任は免れることはありません。

ですが、通常の業務執行に伴って、受委託契約の範囲内に委託者がやるべきものとされているものについては、一義的には委託者が対応すると。だから、何か事が起きたときに、一義的に対応するのは、受託した事業者が対応します。だから、それは費用負担者が責任を免れるという意味ではないので、最終的にはいずれにしても町の名において最終的には解決を図りますけれども、通常の場合においては委託者が責任を負う場合がほとんどです。それが受委託契約の本質です。

○松井教育委員会教育課リーダー そうですね。

○市橋（肇）委員 はい。

○田中委員 そういえば最近そういう異物が入っておったというニュースはないなと思って、以前は大藪小学校でコバエが入ったことがあったが、あそこパントリーに隙間があったんやね。それで改修したので、ぴたっと閉まるようになったので、ああコバエが入らなくなったのかなと。

○市橋（肇）委員 なるほど。いろいろ工夫された。

昔、私は衛生管理とか異物混入だとか、そういうものを製造の立場からすると日常茶飯事にリスクのある部分なんで、その管理についてお話ししますと、受委託の話は町長さんおっしゃったとおり、最終的には委託した人間の責任だと思います。

それから、受託業者としてやれるところは、ある程度やるという点で何があれかという点、一旦起こってしまったことを隠蔽しない。それから、それに付随する類似のものを拡大させない。それから、再発させない。そういうことに全注力を受託側としては注がなきゃいけないんじゃないかなというふうに思っています。

だから、申し訳ないんですが、いろいろな御視察があって、その視察の場所の欠陥がこうだよなんて簡単に見つかるようなレベルの受託業者を使っているというのは、委託業者が駄目なんです。そんな、今、衛生管理にしろ、異物混入対策にしろ、受託をなりわいとしている業者が、そんな簡単にトラブルを起こすようなレベルには僕はないと思っています。

自分もそういう、HACCPなり、ISO9000なりの自己流の管理体制をしいた中で、そんな異物対策だとか、昆虫の混入だとか、そんな初歩的なレベルの話は絶対的にクリアできていると思っています。

それより怖いのは、やっぱり今回のようなコロナだとか、何だかんだ目に見えないような病原菌とか、そういったものについて非常におっかないと。

いろんな食品会社も、いろんな意味でそういうトラブルが再発するようですと、保健所関係の御指導もありますし、単なる委受託だけでは済まない問題になる場合もあるかと思っています。

だから、私は個人としては、この受託業者さんがいろいろなところでいろいろ仕事を請け負っていて、そして真摯に対応して、トラブルが起こったなら速やかに連絡してくるし、再発防止に努めるような業者であれば、委受託契約は継続しても問題ないんじゃないかというふうに僕は思います。個人としてはそういう感じで、ちょっと受託側に味方し過ぎるところがあるかもしれませんが、本当の意味で、多分小・中学生に提供する給食だよというものを扱っている業者が、そんなモラルの低いような業者であろうはずがないというふうに僕は思っています。

○荒川参事兼総務課長 そうですね。

○市橋（肇）委員 はい。

○松井教育委員会教育課リーダー そのとおりだと我々は思って受託もしています。ただ……。

○市橋（肇）委員 起きることはある。

○松井教育委員会教育課リーダー それは当然、絶対というのはありませんので、そこをちゃんとしていくというのは。

○市橋（肇）委員 限りなくゼロに近づける努力をしている、その努力義務を怠ったようなことがあったら、やっぱりそれは契約を見直していただけたらと思いますけど。

○松井教育委員会教育課リーダー またぜひ教育委員会として給食センターへ。

○市橋（肇）委員 給食センターへ、いやいや、だからいいんですけど。

○田中委員 僕が言ったのは、受託にして、孫たちにどうやというと、まあおいしいとって特別不満はないみたいだし、町からも何も聞かないので、うまくいっているだろうなど。ああいうのを、市橋さんは非常にきれいに言われるけど、よその施設ではとんでもない話も聞くもので、委託に出したら。でも、輪之内の場合は、はたから見てもううまくいっているなど思っているんですけど。

○市橋（肇）委員 あと給食センターの設備そのものも、町から提供されているんだと思うんですよね、受託業者に対して。だから、その設備なんかがきちんとしているならば、多分大丈夫だろうと思います。

あと、そういう改善・改良を受託側が提案してきたときに、こういうリスクがあるからということで提案してきたときに、そういった設備改善に対応するような予算をつけてあげると、さらによくなっていくというふうに思いますけど。

○木野委員 それはそういうことでしょうか。今、現有施設を是として受委託契約を結んでおるわけですから、そこで改善事項が出てきたときに、それはすぐに即応しなきゃならないものなのか、やったほうがいいよというレベルなのか、やらないといけないよというレベルなのかによって対応するスピード感は違うと思うので。いずれにしても、やっぱりそういう受託者側から何らかのアクションがあったときに、我々はどう対応したかということは問われます。そこに原因が何かあって、何か事件、事故があったとすれば、これは受託者の話というふうに押しつけることもできないし、それはむしろ我々の責任で対応すべき部分ですよ。

まさしくそれは責任分担の議論なので、だからこそ受託者としてやる部分は何、それから費用負担者であり、設備の提供者としてやる部分は何ということはきちっと区別できているので、多分田中委員のさっきおっしゃったことは、受託者がそこで何をやったかということと別に、設備構造基準上、何か専門家の目で見ると、これはこうしたほうがいいよという、したほうがいいよという……。

○田中委員 僕そんなことを聞いたんやないよ。変わって二、三年になるけど、うまくいっていますかねと、うまくいっていますねと、かねというより、うまくいっていますねと聞いただけで。

○市橋（肇）委員 確認。

○田中委員 あとは付録で。

○木野委員 その部分なら自信を持って大丈夫ですよと言ってもいいと思いますけど。

○市橋（肇）委員 あえて僕らはちょっとよく、自分も現役を離れたので、今度のコロナがあったから、いろんなそういうところのコロナ対策として衛生管理に強化されてきているところがあるやに思うんですけども、そういったところがケース・バイ・ケースで即時に対応できていて、やっぱり衛生管理が充実してきているということならば、それで結構じゃないかというふうに思いますけど。

○木野委員 我々も公の施設の設置についての遵守すべき事項というのは幾つもあるわけですし、特にコロナなんかやと、やっぱり先行してそれに対応していかないと感染のリスクが高くなるので、そこは給食センター、委託したからもう向こうの話やよという話にはしていないつもりですけどもね。

○箕浦委員 給食センター、毎日チェック項目を幾つかやっておりますし、報告はあります。教育委員会も回っております。

○市橋（肇）委員 それでも起きるときはあると思います。

○箕浦委員 今のところはいいと思いますので、問題ないです。

○木野委員 だから、委託したほうの責任者もいるし、受託を受けたほうの責任者もおるし、そ

の責任分担の範囲内できちっとやっている。今のところは幸いなことに大きなトラブルの報告は私は受けていないので、大丈夫だと思っています。

○田中委員 さっきのコバエのとき以来、聞いていないね。

○市橋（肇）委員 うん。

○箕浦委員 コロナの感染が中で調理員さんに出ると大変ですので、その辺りをきちんと徹底していかなあかんと思いますので、難しい。

○田中委員 そういえば一般的なニュースや新聞とかに、コロナの感染対策とかで体制を変えたとかという話は載らんね。マスクをしましょうとか、3密を避けましょうというのはどこでも出てくるけど、だからこのところに壁をつくりましたとかという話は聞かんね。

○市橋（肇）委員 だから、逆にでも、換気をよくしましょうというので不用意に作業場の窓を開けるとか、そういうことはあまりあってはならないとか、防虫網をちゃんと取るとか、それなりの対応が必要だよとか、いろんな話が出てくるかもしれないですけどね。

○田中委員 そういえば、換気扇を大きいやつに変えたとか、その手の話はあるね。

○市橋（肇）委員 いろいろあると思います。

あとは、給食センターで働く人がコロナ感染して働く人がいなくなるということは避けなきゃいけないんですけど、逆に委受託をやっている関係で、受託業者が一生懸命人員は確保してくれるから、そういうところは安心していいんじゃないんですか。自分のところで自前化していたら、そういうことも含めて自分のところに引っかかりますよという。

○木野委員 おっしゃられた部分も含めて、ワーカーの確保という部分も今まで課題があったもので、それも含めて受委託契約を結ぶことになって、受託者の責任においてワーカーを確保すると、それも受委託契約の一つの大きな要素であったことは事実ですね。

○田中委員 そういう説明やったね。

○木野委員 それは今のところはうまくいって、そういうふうになっていますけど。

○荒川参事兼総務課長 よろしいですか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○荒川参事兼総務課長 それでは、3番目、教育委員会の権限に属する管理及び執行の状況報告の流れについてということで、これ今までも以前からありましたが、その流れについて変更をするというようなことでございます。説明をお願いいたします。

○加納教育委員会主任指導主事 すみません。お願いします。

A3のものです。

昨年度、今年度と、この報告が遅れたという事実がありまして、そのこのところの報告の流れをもう一度見直そうと、確認ということで出させていただきました。

学校、校長会、教育委員会、事務局と4つに分けて、学校については、ここに現行のとおりで、12月末に自校評価として評価をして、各学校において出しております。それを教育委員会のほうでまとめて、それを参考にこの執行状況の報告というものを作らせていただいております。

現行という欄を見ていただきたいと思いますが、そのところを2か月ほどずつ事務局の動きを早くすることによって、校長会とか教育委員会での報告を早めていき、今年度ですと、来年度の9月には議会への報告を全て終了するという形で行っていきたいというものです。

提案としましては、この教育総合会議ですね、年度末ではなく、その評価のそろったところで8月ぐらいに実施をするということはどうかなということも含めて、今回出させていただきました。以上です。

○荒川参事兼総務課長 ありがとうございます。

今の御説明であれですが、2か月ほど前倒して、いわゆる外部、議会に報告する前に、やっぱりこの総合会議、行政、そして教育委員会、共に情報共有して、中身を点検、情報共有してから外部に出すという体制を取るという趣旨ということによろしゅうございますね。

そういった流れに変えたいということをごさいますて、これについて何かありましたらお願いいたします。

○市橋（肇）委員 すみません。

○荒川参事兼総務課長 はい、どうぞ。

○市橋（肇）委員 昨日これはもう話を私たちはやっているのですが、このとおりスケジュール的には、昔に比べると、私が教育委員会に入った当時に比べると、もう全然前倒しになって、すごく改善されたということだけはお伝えしたいのと、それからもう一つは、最近コミュニティ・スクール、地域学校協働活動、これの振り返りがこの中にちょっとないんですね。だから、それをちょっと入れるべきじゃないかな。保護者のアンケートとか何とかは学校のレベルで取られているんですけど、今回の予算なんかでも、地域学校協働活動の何という役職でしたか、ちょっと今うろ覚えですけども、その役職に見合った方にも一生懸命今参画してもらっているように思うので、その人たちから基本的には学校運営についての意見、提言があれば、それは毎年聞かなきゃいけないんじゃないかと、その項目がちょっとここに抜けているような感じがするんですよ。保護者からのアンケート調査は従来どおりやられているということによろしいんですが、例えば総括的推進員、各学校本部に学校推進員、協働活動支援員、協働活動サポーター等を配置して、それなりの予算も計上して働いてもらっているわけですので、そういう方たちからの意見もきちんと把握しなくちゃいけないんじゃないかなということも昨日から今日にかけてちょっと僕思ってきたんですけど、いかがでしょうか。

○松井教育委員会教育課リーダー 会長さんが。

○市橋（肇）委員 会長さんだし。

○田中委員 別に反論ありません。そうやなと思います。

○市橋（肇）委員 これを見て、その中にもやっぱり学校評価をどう考えるかという例題みたいなところがありまして、ここに自己評価の実施・公表、自己評価結果を踏まえた学校関係者の評価の実施と公表、それから自己評価結果及び学校関係者評価結果の当該学校の設置者への報告等があるべきだというような言い方をされていると。

今の当該学校の設置者への報告というのは、こういう行政の長への報告、首長さんへの報告だろうと思うんですけども、その中においては、ただ単に学校運営というのは保護者だけというものじゃなくなって、地域との連携ということも強調されて、コミュニティ・スクールなんかもキックオフしてやり始めたわけですから、学校運営については、その方々の御意見、さっきは代表者みたいな人の名前を言いましたけれども、コミュニティ・スクールにおいて学校運営についてどう関与されたか、その結果についてまたこんなことをしてほしいというようなことが、要望があれば、それは承って、我々としてはその学校運営の一指標、一パラメーターとして計上するようにしなくちゃいけないんじゃないかなと思ったんですけど。

○加納教育委員会主任指導主事 ここにちょっと載っていないんですけども、学校が、学校運営協議会に出す前に、多分委員の方からは意見を聞いているんです。その学校から上がってくるときに、その意見、輪之内の場合は兼ねている方が多いんですけども、その方の意見は、ここの学校のところに入っています。

○市橋（肇）委員 入ってきている。

○加納教育委員会主任指導主事 はい。その外部の……。

○田中委員 今年はこういう経営方針でいきますという話をやって、いろいろ議論をして大体がじゃあよろしくというふうに終わるんやけど、そういうのはやっていますので、入っているとえば入っているんやね。

○市橋（肇）委員 そうならば、ここの学校のところに、保護者アンケートとか何とかという項目と同じように、コミュニティ・スクールの結果を計上するようにされればいいと思ったんですけど。

ただ、私は、コミュニティ・スクールとか何とか、片一方でこういう任用しているわけですから、こういう人たちを、責任者を、だからカラムとして各学校、校長会、その並びの中の一つにコミュニティ・スクールとか地域学校協働活動というようなカラムがあってもいいのかなと思う。

そうすると、結局、学校は学校で自分のところの評価を一生懸命やっている、自分の範囲で。

それで、関わっているんだけど、関わったところから自動的にもう出てくるというふうにしておいてあげたほうがいいかなとは思ったんですけどね。

目標としては入れていらっしゃるんだらうと思うし、結局どういうことかということ、結果を受けて、次年度の目標にそれを取り込んであるのかどうかだけをちょっと確認したかっただけです。

○**箕浦委員** 実は私今日出てくる前に、法的なものはどこにこれは根拠があるかというようなこともちょっと調べてきました。前から調べて知っておりますけれども、確認の意味で見ました。

それによりますと、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の第27条に、この規定があるわけなんです。それをちょっと読みますと、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（教育長に委任された事務とそのほか教育長の権限に属する事務）の管理・執行の状況について点検・評価を行い、報告書を作成し、議会に提出すると、公表もするというふうに書いてあります。

それから、この点検・評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする、こんなふうに書いてありますので、学校は学校同士で評価、教育課程の評価とか全てやっておりますので、それはそれで今現在進んでおります。

ですから、これはどっちかということ教育長寄りじゃない、教育委員会の業務の内容、もちろん学校の指導が中心になりますけれども、そういうふうで、ちょっと学校の評価とはまた少し違いと私は思います。

だから、これは時期的に3月までで一応締め切って、1年前の段階のものを、例えば3年度でやる場合は2年度の評価を審議しておりますのでということです。教育委員会の業務を中心に、だから直に学校とつながっているというより、学校のほうでやって……。

○**田中委員** 何々小学校、あなたのところよくやっているよと、そういう話ではないんだ。

○**箕浦委員** はい、そういう。と思いますが、どんなものでしょう。

○**市橋（肇）委員** いずれにしろ、教育委員会が範疇としている中に、いろんなものを立ち上げて、いろんなふうやってきたんですけど、例えばそれじゃあコミュニティ・スクールの活動状況について、どういうふう把握し、どう評価してきているのかということはどこで見ているのかという話になるんですが、例えば先ほど松井さんのほうから振り返りがありまして、そのうちの一番最初か何かにコミュニティ・スクールとか何とかに関係したような記述があったやに思うんですけども、そういう報告について、例えばコミュニティ・スクールを運営したところからの報告書が上がり、それがちゃんとエビデンスとしてあって、その上でこういう評価をしているのかどうかということも教育委員会としては見ていかなきゃいけないんじゃないかというふうにちょっと思ったもんですから、いい機会だから、ちょっと今その辺がされてい

るのかどうかあまりよく分からないんですけど、今回はコロナ禍によりイベントが中止されていますで終わっちゃっているんですけど、イベントは中止されたけれどもコミュニティ・スクールとかそういう組織は動いているはずだし、こういう総括的推進員とか何とかの皆さんには、それなりにお仕事していただいているんじゃないかと思うので、その辺をどう見るか、その辺だけです。

いずれにしろ、片一方で学校が運営していくときに保護者の方の意見を聞いているならば、地域の意見も聞くという意味でコミュニティ・スクールというのはつくったはずなので、そこをちゃんと取り込んでいるかどうかということとはちょっと見ていくことが必要かな、それが学校評価にもつながるんじゃないかなというふうに思いました。以上です。

○箕浦委員 ここへ入れておいても、入れていいですよ。

○市橋（肇）委員 いや、必要ないというんだったら必要なくていいんです。

あと、タイミングの話とはちょっと別ですけど。項目として、そういう項目も必要になるのかなと。

先ほど、議員さんに報告することになるよというような、タイムスケジュールの中にあっただんですけど、ともすると、議員さんに報告するという話になると、公表するという話になると、コミュニティ・スクールじゃないけど、地域との関連をまた何か質疑応答があるかもしれないので、それならばコミュニティ・スクールとかそういったものを通じて、あらかじめ地域の意見というのは集めておいたほうがいいんじゃないかなというふうに思ったんですけど。

それだけです。今は、ちょっと問題提起になっちゃったんで申し訳ないですけど、履き違えなのかどうかはちょっと分からないんですけど、そういう要素もこれからはちょっと考えなきゃいけないんじゃないかなと思いました。

○荒川参事兼総務課長 ありがとうございます。

これ、私の記憶間違いならごめんなさい。これ、議会に報告した。これが、外部評価で、その方が一人称で報告したというような書きぶりになっておるんですよ。

そうではなく皆さん底辺から積み上げてやっていただいておりますということは間違いないので、だからそれは外部からのあれはこういうふうなんですけど、こういうふうな活動を経て、こういうふうなアンケート結果、こういうことも積み上げて、この評価につながっておりますというところを説明する必要がある。

だから、こうやって前の段階で、ここで情報を共有して、出すときに正しい評価、きちっとした、やっておることが正しく伝わるように説明をするために前倒してやりましょうという今日の提案なんです、実は。

○市橋（肇）委員 そうだったんですか。

- 荒川参事兼総務課長 はい。そういうことです。
- 田中委員 議会には、うちらは何か冊子で、何や知らん項目でA・B・Cか何かを書いたやつを見せてもらうけど、最終的に外部評価者の評価の文章を書いて、あれだけが出ていくの。
- 荒川参事兼総務課長 そういうことやったね。
- 野村教育委員会教育課長 はい。
- 木野委員 いや、A・B・C評価と……。
- 松井教育委員会教育課リーダー A・B・C評価も出して。
- 木野委員 評価書が出てくるでしょう。
- 松井教育委員会教育課リーダー 出しているよね。
- 野村教育委員会教育課長 両方出しています。
- 荒川参事兼総務課長 それで、結局その外部評価者だけがクローズアップされてしまっておるんやね。
- 田中委員 なるほど。
- 市橋（肇）委員 評価というのにですか。
- 荒川参事兼総務課長 そうそう。
- それで、じゃあこの人は現場に何回も足を運んだのかと、運んだ上でこれを書いておるのかとかという、そういう話になっちゃったんです。
- だから、外部評価者も十分ヒアリングなり何なりして、絶対に書かれておるでいいかげんなことは絶対書くような人ではないので、だからその辺が伝わり切っていないんですよね。
- だから、せっかくやっているんだから、それをきちっと伝えるべく、ここで一種事前に作戦会議じゃないですけど、こういうふうにしたほうがいいんじゃないかということで時期を。
- 田中委員 僕らもあれ2遍か3遍やるんよね、ここへ出てきて。1回で通ったことはないの、やるわね。それでも、さっきの加納先生の作ってくれたこれを見ると、これだけの手間がかかっているというのが、あれからは読めんのや。
- 荒川参事兼総務課長 そうそう。
- 田中委員 小学校でアンケートをやって、こっちへやって書類が行き来しておるといのが、あれから読めんのや、そのA・B・Cと書いたやつからは。
- 荒川参事兼総務課長 だから、この結果を出すまでに、こういう経過を経ていますということも、そういったことを令和4年9月に出すという予定なんだから、その8月の前に皆さんで情報共有しながら、よりいい見せ方……。
- 田中委員 何か見せ方としては、僕、表、どこかのところに、こういう過程で、こうやってかんかんがくがくやりましたというのを書かんと分からんな、あれ。

○市橋（肇）委員 だから、そういう意味では、いろんな情報に基づいて、その証拠、エビデンスに基づいて評価したんだよ……。

○荒川参事兼総務課長 そういうことです。

○市橋（肇）委員 という意味でも、カラムに作っておいて、そういうところはちゃんと上がっているよと。自分たちとしてはやっているよじゃなくて、明文化していかないと、やったことにはならない。そういう証拠がないと駄目。書類がないと駄目。

○荒川参事兼総務課長 そして、いわゆる本当にやった、一生懸命やりましたというアウトプットの出し方では、それはなかなかあれなので、やっぱりアウトカムになるように、そういった工夫をしたほうがいいんじゃないかというのが、この議題です。

○田中委員 分かりました。

○市橋（肇）委員 ただ単にあれだけじゃなくて。

○木野委員 その前提として、こういう行動をやって、何を評価してそういったA・B・Cが出てきているんだとか、そういうことが一切説明があつた報告文書では見えない。だから、それは報告文書の表面だけを捉えて、彼らも印象でしか物を言いませんからね。これ「A」と誰がつけたんやとか、これ何でやと、自分らが勝手にそう思っておるだけやろうという表面的な理解ですよ。

だから、今やっているように、だからそれはこういうものの積み上げですよということは、客観性を持たせた評価であることを説明する、言ってみれば説明文が要るよねという話と、もう一つは、何でその人なのということをしちっと示しておかないと、物事には二面性があるもので、東京で活躍している人でも、うちへ帰れば隣のおじさんですので、なかなか、えっ何でという話に出ていっちゃうんで、そうじゃないよと。何を評価して外部評価者に登用しているんだとか、その外部評価者に登用する人に提供する評価のための資料というものは、こういう組立てで出てきているよと。その評価というのは、単純にいいものだけを出しただけじゃなくて、今市橋委員がおっしゃったような、いろんなアンケートだとか、それから一つにはそこで参画しているいろんな地域協働推進員だとか、それからいろいろな教員以外の人もいるわけだから、そういったものも全部もろもろ網羅した中で出てきて、最終的にはああいうアウトプットとしてA・B・Cの評価が出ていよとかいうことなんですよ。

○市橋（肇）委員 形式で。

○木野委員 うん。それは逆に言うと、話すきっかけができるような報告書になっていないという話になる、きれい過ぎて。

逆に言うと、地域協働にしても、何とかリーダーにしても、基本的には学校運営のための一つのパーツとして登場している話なので、だからそれだけが独立して何かの項目をつくってと

いう話にはなかなかならない部分はあると思うんです。

ただ、学校なら学校なりの報告書の中に、その人たちの意見が明らかに反映されたと思えるような記述をしていくことも必要だろうと。そうすれば何にも問題ないのかなという気はするんですけどもね。なかなかそんなに時間をかけて議会報告をしているわけではない。

○田中委員 だけど、ぱっと見たときに、そういうふうにとられてしまっはまはずいな。

○木野委員 うん。ぱっと見たときに、逆に言うと、ああようできておるよねという印象を持たれるように。

○市橋（肇）委員 ある意味で業務監査みたいな形なので、基本的には監査役というものが、どういう方をちゃんと任用したかということもこちらとしては記録を持っていきやいけない。こういう人が適当だと考えた理由とか、そういったものをちゃんと持っていないと、業務監査したことにはならない、そんなふうにはちょっと感じますね。

○木野委員 せっかく手間暇をかけているのに、表面的な話では駄目やと思います。

だから、議会報告までに、せっかくこういう機会もあるんだから、ここで少なくとも分かりにくい部分は分かりやすくしないとやばいし、ここで理解されないようなことが、ましてやそこへ出て行って理解されるはずもないので。少なくともここにおけるメンバー、もし仮に何か言われたときには、ここはこういうことだよという説明ができるぐらいのレベルに理解をしておいてもらえば、もし仮にどこかで何かがあったとしても、いや、そんなことは書いていないよとか、そういう意味じゃないよとかいう反論がきちっとできる程度にしておかないと、やっぱり千差万別ですよ、受け取る人は、同じことが書いてあっても。だから、できるだけ少なくとも大多数の思いと同じような受け止め方をしてもらえるような努力をしないと、せっかくやった意味がないよねという話になる。

○松井教育委員会教育課リーダー ちょっと蛇足であれですけど、実はちょっと古いデータですけども議会の報告の方法とかいうデータがありまして、各市町どうやってやっているかというところ、本会議、委員会等で説明し審議している市町が11.1%、本会議、委員会で説明が36%、これはうちですね。それから、書面による提出のみというところが52.1%。というところ、うちはそれなりにちゃんと説明をして出しているというふうになるのかなと思います。

それから、公表の方法は、冊子やパンフレット等を配付28.2%、ホームページ、うちこれホームページですけども62.3%、その他というのがあると。

それから、点検・評価を行うに当たっての知見の活用状況ということで、大学教授等33.7%、企業関係者という方も11.0%、退職教員の方が44%、弁護士・税理士・公認会計士というのが4.7%、NPO関係者4.0%、それからPTA関係者が保護者ということで残り31%ということで、退職の教員の方が多いと。今うちは33.7の大学教授等に入るのかな。

- 市橋（肇）委員 学識者だよな。
- 松井教育委員会教育課リーダー 学識。というふうな形。
- 木野委員 だから、別に変わったことをやっているつもりはないんだけど。
- 市橋（肇）委員 ないですね。
- 松井教育委員会教育課リーダー ということなんですね。
- 木野委員 変わったことをやっているつもりもないし、逃げているつもりもないし。
- 松井教育委員会教育課リーダー ないです。うちが特別何かあれしているわけでも。
- 田中委員 よう一生懸命探してみえたなど、いい人をという感じがしている。
- 木野委員 だから、堂々と何でその人を評価者にしたんだということを逆にきちっと説明していかないもんだから……。
- 松井教育委員会教育課リーダー なるほど。
- 木野委員 という話になっちゃうわけ、誰やこれから。誰やこれやないんやわ。誰やこれなら、まだある部分の期待を持って聞かれる部分はあるんだけど、みんな知っておるがやという話になって。僕はあの後で言ったはずやけど。
- 松井教育委員会教育課リーダー はい、聞きました。
- 田中委員 でも、町内の人もいいよね、うちら町民としては。昔からこういうのがあったわな、講演と頬づえは遠いところで打てというて。講演、レクチャーと頬づえは遠くのほうが効く、近くのほうがやってはいかんという。
- 松井教育委員会教育課リーダー なるほど。
- 田中委員 言葉が昔あったわね。今でもあると思う。
- 市橋（肇）委員 いずれにしろ、こういうタイミングで、早倒しの差で事前にこういう総合会議でもみますよという言い方、御趣旨には合っているような感じはするんですけど、いかがですかね。
- 荒川参事兼総務課長 よろしゅうございますかね、こういった計画で進めさせていただいて。
- 田中委員 ちょっと一回また作ってもらって、この8月か、なるべく早い機会に一遍やって、その前にもう一回下でやったほうがいいかもしれんな。
- 木野委員 大体こういうのは年度が終わって早めに出したほうがいいですよ。今頃何を出してきてと言われると、そんなもん今頃聞いてどうするんやという話。
- 田中委員 町長さん、前は1年遅れておったんやで。
- 市橋（肇）委員 まるっきり。
- 田中委員 来年の9月に出しておったんやね。ここまで来たところで、10年たつので、もうそろそろ定常状態にしないと。最初は面倒くさかったの、去年のやつを来年の9月に出してお

ったわね。次のやつが迫って行ってしまったりしておった。

○木野委員 今、何でも早くなってきたおるんで。

○田中委員 早い早い。

○木野委員 決算でも12月でやっていたやつを9月でやるとか、だんだん早くなっているの
で、スピード感覚に慣れることが必要だと思います。

そういうことで書いていただいておりますので、よろしいんじゃないですか。

○荒川参事兼総務課長 はい。それなら、そういうことで。

○田中委員 野村課長の苦勞というのはこういうことやとよう分かった。御苦勞さんです。

○荒川参事兼総務課長 ありがとうございます。

時間もあれなんです、4番、その他ということで、皆様方から何かございますか。

よろしゅうございますか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○荒川参事兼総務課長 それでは、長時間にわたりまして慎重審議いただきましてありがとうございました。

これで総合教育会議を閉じさせていただきます。本日はありがとうございました。

(午後8時56分 閉会)

